

長野の林業

No.
388
2023.7.10

特集

主伐・再造林特集（第4回）

トピックス
地域の話
コラム
県森連だより

- ・ 森林環境譲与税活用事例
- ・ 佐久地域／木曽地域／北アルプス地域
- ・ 林業士リレーコラム



長野県立御嶽山ビジターセンター「やまテラス王滝」外観
(場所 木曽郡王滝村田の原3162)



木曽地域産材(ヒノキ・カラマツ)を使用した内観
やまテラス王滝「カフェスペース」



木曽町御嶽山ビジターセンター「さとテラス三岳」外観
(場所 木曽郡木曽町三岳10491-12「道の駅三岳内」)



木曽地域産材(ヒノキ・カラマツ)を使用した内観
さとテラス三岳「展示スペース」

2014年の御嶽山噴火災害を受け、木曽町と王滝村に「御嶽山ビジターセンター」が昨年8月末に開館し一年が経過します。

内観の横架材等には、木曽地域産材のヒノキ・カラマツを使用し、木のぬくもりを感じる建物となっています。

このセンターは、御嶽山の火山防災情報や歴史・文化を学び、豊かな自然の魅力や地域の観光情報などを伝える情報館となっています。

登山シーズンを控え、火山防災と歴史・文化を学びにぜひご来訪下さい。



長野の林業
フルカラー版

主伐・再造林
特集（第4回）

造林緑化係長のこれから「き」になる話

県内の多くの人工林が伐採適齢期であることから昨年度に引き続き、主伐・再造林に関する情報を3回シリーズ（第4回から第6回）で掲載します。

これからの造林は省力化がポイント

令和4年度の森林・林業白書では、「林業は、造林から収穫まで長期間を要し、自然条件下での人力作業が多いという特性があり、このことが低い生産性や安全性の一因となっており、これを抜本的に改善していく必要がある。このため、森林・林業基本計画では、従来の施業等を見直し、エリートツリーや遠隔操作・自動化機械の導入等、開発が進みつつある新技術の活用により、伐採から再造林・保育に至る収支のプラス転換を可能とする『新しい林業』に向けた取組を推進する」とこととしています。再造林においては、地拵え、植栽、下刈りという3つの作業において、それぞれコストや労働負荷を削減する技術の開発・実証が進められています。

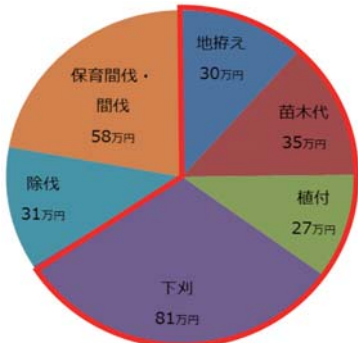
主伐・再造林の省力化に必要な「き」になる話2点を紹介します。

(1) 主伐と造林の一貫作業、低密度植栽等による保育作業の省力化の推進

造林面積に拡大傾向は見られるものの、地拵えから下刈りまでの造林経費は、全体の7割を占めることから、この間の経費を削減し、林業の採算性を向上する必要があります。

そのためには、一貫作業システムによる効率化や1ha当たり2千本以下の低密度植栽、下刈り回数の削減等の省力化を進める必要があります。

一貫作業システムとは、伐採・搬出作業と並行又は連続して、伐採・搬出時に使用した林業機械を活用し、地拵えや苗木等の資材運搬を行う又は集材用架線を苗木等の資材運搬に活用し、主伐から再造林までの作業の効率化を図る仕組みのことです。



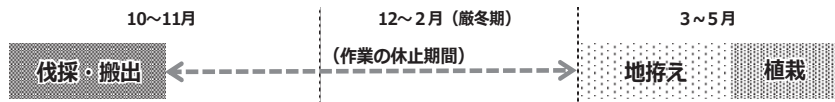
林野庁「森林・林業・木材産業の現状と課題」(2019年6月)

一貫作業システムと従来の施業方法との違い

〈従来の施業方法〉



〈機械地拵え〉

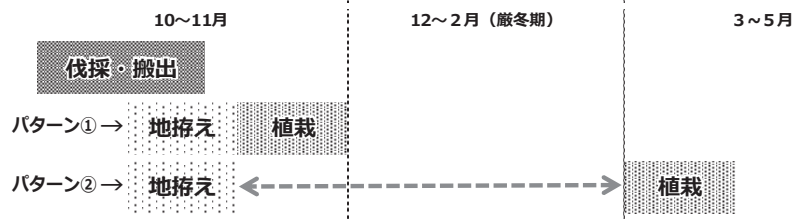


伐採・搬出と地拵え、植栽は、別事業として異なる時期に行います。伐採・搬出から地拵えまで、作業の休止期間が生じるため、植生が繁茂し、地拵え作業の負担が大きくなります。

〈一貫作業システム〉



〈フォワーダによる苗木運搬〉



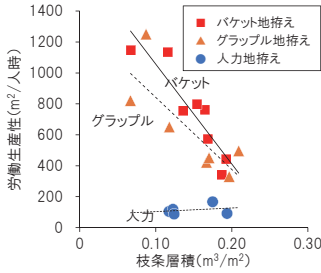
伐採・搬出と並行して、地拵え、植栽を実施する作業の仕組み。伐採作業終了から地拵え作業開始までの作業の休止期間が生じないように一連の作業として行い、伐採・搬出作業に使用した機械を地拵えに活用することで、省力化・低コスト化が可能となります。(パターン①) 地拵えまでを一連の作業で行い、春先に植栽を行う場合もあります。(パターン②) 植栽適期が長いコンテナ苗が多く使用されます。(適期であれば裸苗も可)

(2) 機械地拵えによる下刈り回数の削減

長野県林業総合センター育林部の大矢主任研究員の調査によると、機械地拵えにより植物の根や種子が多く含まれている堆積腐食層をバケツト等で棚に寄せることによって数年間は雑草木が生えにくくなり、下刈り回数が削減できるとのことです。

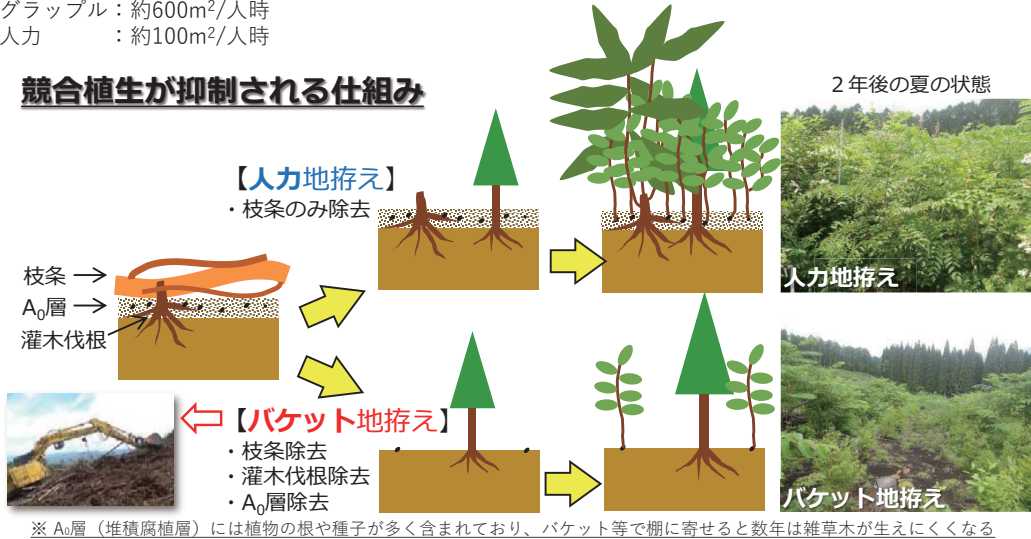
技術のポイント

- 機械地拵え（特にバケツト地拵え）によって…
- ・作業が効率化、軽労化し、かつ低コストに
 - ・競合植生が減少し下刈り回数を削減可能
 - ・地山勾配25°以下の林地で適用可



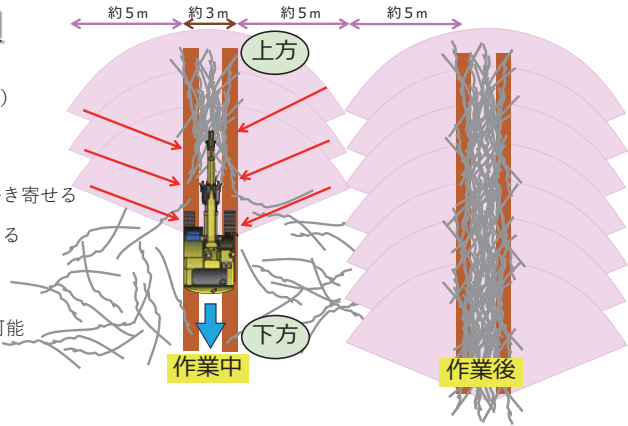
【地拵えの標準的な生産性】
 バケツト：約700m²/人時
 グラブブル：約600m²/人時
 人力：約100m²/人時

競合植生が抑制される仕組み



機械地拵えの作業例

1. 斜面下方から上方へ前進（障害物位置を確認しながら）
 2. 斜面下方へ後退しながら、機体前方に左右の枝条を集積
 3. 表層の腐植や根株も含めてかき寄せる
 4. 走行路は棚（枝条）の下になる
- 【特徴】
- ・植栽面が締め固められない
 - ・バケツト、グラブブルとも可能
 - ・地拵え棚は縦方向

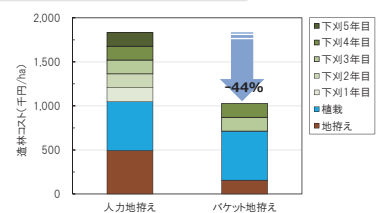
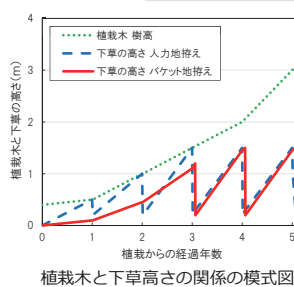


棚のタラノキを活用



バケツト地拵えの棚にはタラノキが集中的に発生しやすく副収入に期待（約16万円/ha・年の収益と試算）

機械地拵えで造林コスト全体を削減



造林コスト内訳（造林事業標準単価による積算、千円/ha）

地拵え方法	地拵え	下刈り（年目）					計
		1	2	3	4	5	
人力	493	556	157	157	157	157	1,834
バケツト	157	556	157	157	157	157	1,027

これからの、森林の若返りのための主伐・再造林を重点的に取り組む必要があり、「苗木の種の安定的な確保」「優良な苗木の生産」「効率的な植栽方法」「下刈りの省力化（機械化等）」「獣害対策」等の様々なことが「き」になりますので機会があれば「長野の林業」に投稿したいと思っております。また、新しい情報や「き」になることがありましたら造林緑化係にご連絡ください。

おわりに

【森林づくり推進課 造林緑化係】

長野県内の森林環境譲与税の活用事例

〜森林を持続的に生かす取組みの拡大〜

森林環境譲与税は、所有者不明森林の顕在化や担い手の不足などにより、手入れ不足となっている森林への対応などに活用するため、令和元年度から国による都道府県・市町村への譲与がスタートしました。また、その財源である「森林環境税」の課税(年額1,000円/人)は、令和6年度から開始することとされています。

長野県内では、皆様からいただく貴重な財源を活用し、市町村を中心に様々な取組みを進めていますので、その事例をいくつかご紹介します。

まず、茅野市では、諏訪地域の市町村の森林経営管理制度※のモデルとして私有林での森林整備を実施しました。諏訪地域の市町村ではこのモデルを参考に森林経営管理制度の取組みを進めていくこととしています。こうした取組みは、北アルプスや木曽地域などでも実施されています。

伊那市や大鹿村では、森林整備に繋がる取組みとして、路網の整備や境界が不明確な森林の境界を推測するための図面を作成する取組みを実施しています。

大町市では、1歳6か月検診時に、乳幼児へ木のおもちゃをプレゼントする「ウッドスタート」に活用し、森林整備や木材利用につながる普及啓発に活用しています。

また、県に譲与されている森林環境譲与税については、森林を整備する担い手の確保・育成や林業の労働安全の強化対策、県内の森林整備などで出てきた木材を首都圏で活用するためのコーディネートなどに活用し、市町村だけでは解決できない森林に関する諸課題に対応しています。

森林環境譲与税は、今回ご紹介した取組み以外にも地域の森林に関する課題に対応するために様々な取組みに活用されています。こうした取組みにより、2050ゼロカーボンを見すえつつ、県民の皆様が安心して暮らせる豊かな社会の実現に貢献しています。

※ 森林経営管理制度とは、適切な経営管理が行われていない森林において、市町村が主体となって森林の経営管理を行う制度です。

長野県内における森林環境譲与税の主な使い道

茅野市ほか：森林整備



(間伐前の森林)

(間伐後の森林)

市町村が主体となり、これまで管理が行われていない森林において、間伐などの森林整備が行われています

上田市ほか：担い手の育成



(担い手の育成)

森林を整備する担い手等の確保・育成や、林業の労働安全の強化を図っています

大町市ほか：木材の利用・普及



(プレゼントの積み木)

市内のお子さんに木に親しんでいただくため、プレゼントの取組みがされています

大鹿村ほか：森林境界の明確化



(GNSSを活用した境界確認)

(境界の確認に必要な林相識別図)

境界が不明確な森林の境界を推測するための図面を作成し、森林整備を進める準備が行われています

伊那市ほか：路網の整備



(路網の整備)

森林の整備や木材の搬出に必要な路網の整備を進めています

長野県：首都圏における木材利用



(千葉県の小中学校で長野県産材を利用)

県内の森林を整備して出てきた木材は、県内だけでなく首都圏での活用も推進しています



このコーナーでは、
林業士の活動状況など
をリレー形式でお届け
していきます

私の暮らしている下伊那郡天龍村は、県南端で静岡、愛知と接し、村の中央を北から南へ天竜川が流れ、両岸に切り立った山々が連なる峡谷の村です。古くから木材生産が盛んで、その昔は天竜川を利用した水運により、遠く奈良の大仏殿の建立や江戸城築城に天龍村産の木材も供給されたとの記録が残っています。

私が幼いころ、遠く離れた先山から切り出された木材が架線集材で運ばれてくる光景や、木材を満載したトラックがゆっくりと自宅近くの道路を下っていくのを見ては、自分も大人になったらこの仕事に携わりたいと思う様になりました。

地元農業高校の林業科から東京新木場の銘木会社に就職して4年間勤務した後、帰郷して森林組合の職員としてお世話になることとなりました。組合員所有の山林で様々な経験を積む中で林業士の研修にも通わせてもらい、様々な立場の方々と楽しい研修期間を過ごしました。若かった私は、教官の方々に好き放題の発言を繰り返していたにも関わらず、林業士として認定していただきました。

林業士の活動としては、地元中学校の校有林での間伐体験や、村所有の移動製材機を使った製材体験を通して生徒のみなさんと交流し、森林の大切さや役割、木の目や香りのよさなど、素材としての素晴らしさを感じてもらえるよう取り組んでいます。

5年程前の中学校での体験学習の際、私は身近な木製の生活用品を生徒に見せながら、自分達の村で育った木を使って村のPRを考えて欲しいと提案しました。生徒たちは様々な意見を出し合い、村

内産ヒノキで木製ハンガーを製作することになりました。折しも2年後に東京オリンピック・パラリンピックの開催を控えていたこともあり、話はどうどん膨らみ、国内外の選手に手作りハンガーを渡して村をPRしようと、大人には思いつかない企画に発展したので、役場の全面的な支援により、多くの村民も巻き込んだ大事業となり、2020本の手作りハンガーを多くのアスリートに届けることができました。メディアでも紹介されるなど、中学生の発想で思いもしなかったイノベーションが起きたのでした。

これから先、林業士として、持続可能な「小さな林業」をしながら山と向きあい、美しい森林景観を作りあげることが目標に、多くの人々に林業の楽しさを伝えていくのが自分の役割と考えています。そのために必要なのはやはり「イノベーション」。あきらめずに進みたいと思う毎日です。

プロフィール

熊谷秀敏 54歳

長野県林業士会 理事

南信州林業研究会

林業士部会 会長

森林組合職員として林業に従事する傍ら、民宿の経営をスタート。春の山菜や秋の松茸、樺材さわの風呂桶、自家生産の新でお湯を沸かすなど、山の幸を使ったおもてなしでリピーターも増え、この秋に開業23年を迎える。



林業士とは？

地域の森林林業現場で主体的に活動する方を増やし、林業の活性化を図るために昭和48年から長野県が認定しているもので、県下各地で「地域林業の中核的人材」として活躍しています。



佐久地域

佐久のスマート林業あれこれ

〜佐久森林組合の取組み〜

● 林業の発展に向けたスマート林業の取組み

林業の持続的かつ健全な発展を図るためには、近年発展が目覚ましい先端技術を活用して生産性や安全性を高めることが重要です。この中で情報通信技術（ICT）等を活用し資源管理や生産管理を行うスマート林業の取組みを紹介します。

● ICT等を活用した佐久森林組合の管理業務

佐久森林組合では、森林資源の調査や作業員の労務管理にドローン（無人航空機）やICTを活用しています。森林資源の調査では、ドローンで撮影した空中写真のオルソ画像ソフトを活用して、立木の本数や材積を試算し、調査にかかる労務費を削減しつつ、収益や費用の見積りの精度を上げてより良い施業提案をするよう取り組んでいます。

また、勤務状況の集計では、技能職員が勤務データをスマートフォンアプリのクラウド（Googleスプレッドシート）に直接入力することでペーパーレス化・省力化できるため、事務経費を減らすとともに、工事現場ごとの原価データを職員が共有することで作業内容の分析や改善に取り組んでいます。

【佐久地域振興局林務課】



オルソ画像を使った森林資源の調査

20/10/21(水)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/22(木)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/23(金)	9991	研修	1.00	①A職員
20/10/24(土)		#N/A		①A職員
20/10/25(日)		#N/A		①A職員
20/10/26(月)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/27(火)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/28(水)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/29(木)	2151	C	1.00	①A職員
20/10/30(金)	2013	F	0.50	①A職員
20/10/30(金)	9998	有給	0.50	①A職員

作業員が入力した勤務状況の例

木曾地域

製薬会社によるキハダ植樹の取組

「百草」は霊峰御嶽山の御霊薬とも称された伝承薬、「百草丸」は百草に複数の生薬を加えた胃腸薬で、古くから木曾地域で生産されてきました。主成分の生薬オウバクはキハダの樹皮ですが、現在ほとんどが海外から輸入されています。

日野製薬株（木祖村）では国産キハダが減少している状況に危機感を抱き、3年前から大規模にキハダ植樹を始めました。昨年度からは体験を通して木曾の自然・文化等を理解してもらおうと、木祖小学校の児童も植樹に参加しています。今年5月2日に社員等で木曾町にキハダ1,000本を植栽しました。

そして、5月16日には木祖小学校5年生20人と地域のお年寄りが学校行事に参加する「もいちど小中学校」の受講生らが学校隣接地に75本のキハダを植栽しました。この日は、作業の前に木曾地域の森林、キハダや百草・百草丸についても学習しました。百草丸の原料3種の味見をして、どれがどの生薬か当てる「生薬当てクイズ」には、皆興味深々で参加しましたが、あまりの苦さに悶絶していました。キハダの収穫までに25年かかるそうで、その頃には、参加した児童も国産キハダで出来た百草・百草丸が飲めることを願っています。

【木曾地域振興局林務課】



参加者全員での記念撮影



植樹する社員と児童



北アルプス
地域

地域の木を地域で使う 仕組みづくりを目指しています

北アルプス管内の民有林は約2/3が広葉樹で占められていますが、昭和30年代後半の燃料革命以降放置された森林が多く、現在広葉樹資源はあまり活用されていません。一方で、地域産の木を使いたいという声は、地域の作品製作を行う方から寄せられるようになっていきました。

このため当地域では、木を伐採する川上側、製材する川中側、作品を製作する川下側の皆さんが連携して、地域の木が地域で使われる仕組みづくりを、令和3年度から行っています。

具体的には、当地域で製材した板材等が、乾燥の仕方(天然乾燥、ビニールハウス乾燥、人工乾燥)により、木工作品にどのような差が生まれるかを木工家さんやユーザーさんに体感してもらい、人工乾燥を行わなくても作品として成り立つかを模索しています。また、川上側の丸太、川中側の板等の在庫情報を発信し、川下側が求めているものとのマッチングができるような仕組みづくりも行っていく予定です。

この他にも、地域での木材の需要を増やすため、広葉樹活用フォーラム(先進地事例の勉強会)や製材マルシェ(製材を知ってもらうイベント)も行い、川上側・川中側・川下側の情報と人がうまく繋がることで、当地域で新たなビジネスモデルが構築されることを目指して、地域の皆さまと一体となって取り組んでいきます。

【北アルプス地域振興(局林務課)】



規格を要望しながら製材を実施



仕組みづくりの議論

令和5年度 木育事業

広がろう・つながろう

第46回 長野県児童・生徒木工工作コンクール

締切/令和5年 9月15日(金) 審査/令和5年 10月12日(木)

●応募資格/長野県下の小学校、中学校、特別支援学校(級)の児童生徒の皆さん

●作品基準/

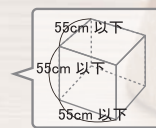
①テーマ/自由(ただし、木材を主材料として利用・加工した総作品であること)

②大きさ/1辺が55cm以下(タテ・ヨコ・高さ全て55cm以下)

※台を含め55cm以下、展開したり、広げて展示する作品も55cm以下

③その他/搬入搬出において、壊れにくいもの(破損した場合の責任は負いません)出来るだけ県産材を活用してください。

※作品の出品については各学校で受け付けております。その他不明点は下記までご連絡いただくか、ホームページまで!



みんなで
応募しよう!

■主催:長野県木材青壮年団体連合会

■共催(予定):長野県/中部森林管理局/(公財)長野県緑の基金/長野県産材振興対策協議会/長野県木材協同組合連合会

■後援(予定):長野県教育委員会/(一財)長野県建築住宅センター/長野県森林組合連合会/NHK長野放送局/SBC信越放送/NBS長野放送/TSBテレビ信州/abn長野朝日放送/長野エフエム放送/新建新聞社/長野県民新聞社

■お問合せ先

長野県木材青壮年団体連合会 事務局(長野県木連内)

〒380-8567 長野市岡田町30-16 TEL:026-226-1471 FAX:026-228-0580

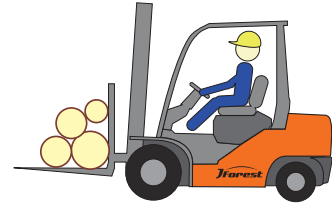
ホームページはこちら →

もくせいれん

検索



どんなところ?



◀長野県森連 HP でも各木材センターの取り組みや市況を紹介しています! ぜひご覧ください

北信木材センター

長野市穂保字中ノ配 342-1



○北信木材センターは、北は豪雪地帯で有名な栄村、西は観光地で有名な戸隠・飯縄山、南は「姨捨の棚田」で有名な千曲市まで、広域から出荷いただいております。特にスギの取扱数量では県内一の実績があります。

また、北信地域には雪深い環境で育った広葉樹の大径木や特殊材も豊富なため、集荷に力を入れています。



青柳 良宏所長

南信木材センター

上伊那郡辰野町伊那富 5892-1



○南信木材センターは、県産材の加工拠点として、カラマツに特化した木材センターです。

カラマツに付加価値をつけ、有利販売につなげるべく、毎日コツコツとカラマツ杭を作っています。

原材料となるカラマツ原木（小径木）の買取も積極的に行っています。



小池 淳所長

○市売の流れ

入荷



各地の森林で伐採された木材が大型トラックで毎日運ばれてきます。また、木材センター職員が伐出現場に出向き造材指導も行っています。

検知・仕分け



需要にあわせ、樹種や規格を基準に寸法を測る検知と仕分けを行い、番号をつけた極（はい）を作ります。針葉樹は自動選木機も使っています。

入札



買い方は極番号ごとに希望単価を入札し、最も高額な札に落札されます。丸太は立方メートルあたりの単価で取引されます。（ケヤキなど例外あり）



木材センターって

魚や野菜・果物のように丸太にも市場があり、日々取引が行われています。

木材市場では、各地域の山から伐り出された木材を集め、径級や長さ、樹種を基準に需要に合わせて仕分けることで、木材に価値をつけて販売しています。個人では難しい販路開拓や安定供給を木材市場機能を活用した共同出荷を行うことで実現しています。

長野県森林組合連合会では、北信、中信、伊那、南信の県内4つの木材センターで、スケールメリットを活かした木材販売を行っております。毎月1～2回開催している原木市で販売するほか（※南信除く）、県内外の大型製材工場と出荷協定を結ぶなど、長野県産材の流通拠点として関係者の皆様と連携し、木材の集荷、仕向け先への安定供給および更なる販路の開拓を通じて地域林業・木材産業の活性化に努め、地域経済に貢献できるよう取り組んでいます。

中信木材センター

安曇野市三郷温 4000



伊藤 淳 所長

○中信木材センターは、森林組合をはじめ素材生産業者から出荷いた

だいた、北アルプス地域から安曇野、松本平のカラマツ、アカマツを主とする針葉樹、多種の広葉樹が集まる木材市場です。

県内はもちろん、県外からも多くの方が入札に参加くださっています。また、敷地面積は県内最大級で、木材のストック機能強化に取り組んでいます。



伊那木材センター

伊那市東春近 2973



中谷 勝 所長

○伊那木材センターでは、伊那谷流域（諏訪・上伊那）で生産されるヒノキ、アカマツ、スギ、カラマツ、広葉樹などの素材丸太を集荷、販売しています。

特にヒノキは地元産材の良さを熟知した地元の製材所に引き合いいただいているほか、県外の需要に応えられる体制をとっています。





農林中央金庫 国産材利用拡大活動による木製テントの寄贈

ウッドチェンジで 信州の農業を盛り上げる！



農林中央金庫のCSR事業である「国産材利用拡大活動」で、長野県産スギ材を使用した木製テント「CO屋POD(ポッド)／SAIL(セイル)」が寄贈されました。この活動は、国産材の良さや価値を広く伝え、国産材製品の利用を拡大するため継続的に行っています。昨年引き続き協同組合間連携の一環として、長野県協同組合連絡会へ寄贈先を募集したところ、会員である

▲4月28日にJA長野県ビルで行われた寄贈式の様子

長野県森連 高田専務理事からJAグリーン長野 栗林組合長へ、農林中央金庫 島田担当部長からJA信州うえだ 眞嶋組合長へそれぞれ目録が手渡された

地域づくりを目指す「長野森林組合・(株)やま秀田中建設・一級建築士事務所 MTK Architects」の在長野市専門家チームである「信州木造り工房」が製作し、販売している木製テントです。長野県ウッドチェンジ普及促進支援事業にも採択され、一般販売も開始しています。

JAグリーン長野では、PODを農場や親子農業体験の休憩小屋に使い、SAILを県内外での農産物販売イベントで活用し、JA信州うえだでは、上田菅平IC近くにある「うえだ食彩館ゆとりの里直販センター」でCO屋を販売ブースとして使用し、SAILを店内やイベントの仕器として使うとのことです。



▲かわいい木の雰囲気はマルシェイベントにぴったり

▲持ち運びが容易な組立型のSAIL(右)は、幅約3.16m×奥行1.9m×高さ約2.07mで、道の駅やマルシェなどで販売ブースとして、おしゃれな木の雰囲気ある売り場を実現できる商品となっております。常設型のPOD(左)は、幅約2.3m×奥行1.7m×高さ約2.3mで、庭のあずま屋やオフィスの打合せブース、店舗の仕器として木の空間作りができるほか、天幕の使い方によっては物置や災害時のシェルター、テントサウナなどとしても使える

4月28日にJA長野県ビルにて、JAグリーン長野の栗林和洋代表理事組合長、JA信州うえだの眞島実代表理事組合長、長野森林組合の和田智代表理事組合長、信州木造り工房から田中敏明氏と目時亮氏、農林中央金庫から島田博之長野県域担当部長、長野県森林組合連合会から高田幸生専務理事が出席し、寄贈式が執り行われました。ぜひ、2つのJAのイベントや直売所にお越したいただき、寄贈された「CO屋 POD／SAIL」に触れて、長野県産材や森林・林業を身近に感じてみてください。



▲JA信州うえだ「うえだ食彩館ゆとりの里」へ納品の様子



▲CO屋についてはこちらから

より良い社会の実現へ
長野県協同組合連絡会
通常総会

第53回長野県協同組合連絡会通常総会が6月5日にJ A長野県ビル（長野市）にて、3年ぶりに実開催にて執り行われました。

総会は、労働者協同組合ワーカーズコープながの・鈴木友子代表理事（連絡会会長）から挨拶が行われた後、第1号議案「令和4年度事業報告並びに収支決算の承認について」に始まり、第5号議案まで全ての議案についてそれぞれ審議のうえ、原案通り承認されました。

令和4年度は、10月に「協同組合フェスティバル」が4年ぶりに長野市善光寺表参道セントラルスクエアで盛大に開催され、多くの方に協同組合運動の取り組みや協同組合間連携の楽しさを伝えることができました。また、日頃から健康づくりを習慣化するきっかけとして「信州まるごと健康チャレンジ」が継続して行われたほか、10月1日に施行された労働者協同組合法に関連した学習会や、2月に協同組合職員交流集会でSDGsについてカードゲームで学ぶワークショップが開催され、新型コロナウイルスの蔓延から停滞していた会員間での連携活動が徐々に再開できた1年でした。

総会終了後は、日本協同組合連携機構（JICA）の前田健喜 協同組合連携部部長から「協同組合のアイデンティティと協同組合連携」をテーマに講演がありました。

1995年のICA（国際協同組合同盟）マンチェスター大会での「協同組合のアイデンティティに関する声明」の採択から25周年となったソウル大会では、グローバルなIT化や気候変動、多様性や包摂性の意識の向上など、取り巻く環境の変化を背景にアイデンティティを深め、よりよい社会を作るべく、協議が開始されているという世界の協同組合運動の現状が伝えられました。

協同組合間連携の取り組みについては、参加の質を高めることと、より多様な組織や人がつながることが重要であると、全国各地での事例を交えて紹介されました。

また、長野県の特徴として、複数組合加入率が全国5位（27.8%※世帯ベース）と高く、組合員の協同組合活動への理解度も高い傾向にあることが紹介され、会員相互でネットワークを活用した取り組みができないか、意見が交わされました。

7月1日（土）は
国際協同組合デー



令和5年度
職長・安全衛生責任者教育



▲グループワークでKYTに取り組む

2023年6月19日、20日に安曇野市三郷のもくりゆう館で、森林組合職員を対象とした「職長・安全衛生責任者教育」が開催されました。

この研修会は現場の作業員の安全及び指導・監督能力の向上を目的として平成11年から継続して開催されています。今回は、県内7つの森林組合から16名が受講しました。

RSTトレーナーの横山繁樹氏を講師に迎え、職長の役割や職務、監督・指示の方法等の講義と各議題について学びました。研修は4人の班でのグループワークを中心に進められ、危険予知トレーニング（KYT）、作業手順書の作成、チェーンソーによる伐木造材作業に関する作業計画書の作成、長野県内で実際に発生した災害事例の研究、リスクアセスメントを行いました。

これまで林業界では、工場や建設現場と異なり、不確定要素が多い労働環境から、作業方法や仕様を明確に伝えることが不十分でしたが、労働災害撲滅や確実な後継者育成に向けて、作業計画書様式の開発やリスクアセスメントなどの取り組みが普及してきています。

また、異なる地域で林業に励む仲間が集まる貴重な機会であることから、現場での安全向上や仕事の進め方、後進への指導方法などを互いに相談し合う場面もありました。

受講者には後日、労働安全衛生法で定められた「職長・安全衛生責任者教育カリキュラム」に基づく修了証が交付されます。



暑中お見舞い申し上げます



長野県林業経営者協会
会 長 林 和 弘

一般社団法人
長野県林業普及協会
会 長 林 和 弘

長野県木材協同組合連合会
理事 長 宮 佐 都 都 新 柴 松
副理事 長 崎 原 築 井 島 井 村 本 田
副理事 長 正 良 照 藤 宗 昌 寿
副理事 長 毅 彦 透 幸 弘 志 弘
専務理事 長 務 局 長

長野県森林組合連合会
代表理事 長 藤 原 忠 彦
副会 長 林 幸 弘
代表理事 専務 櫻 井 田
常務理事 櫻 井 田

一般社団法人
長野県林業センター
理事 長 藤 原 忠 彦
副理事 長 宮 崎 正 毅
副理事 長 水 本 宣 敏
常務理事 宮 本 宣 敏

長野県山林種苗協同組合
理事 長 神 戸 直 日
組合員 一 同

信州木材認証
製品センター
理事 長 宮 崎 毅
副理事 長 高 木 正 明
副理事 長 柴 田 幸 生
専務理事 長 務 局 長 松 本 昌 弘 志

林業・木材製造業労働災害防止協会
支 部 長 宮 崎 毅
副支 部 長 高 木 正 明
幹 事 長 柴 田 幸 生
事務局長 中 裕 一郎

長野県林業団体協議会
副会 長 高 藤 幸 彦
副会 長 宮 崎 正 毅
副会 長 水 本 豪

一般財団法人
長野県林業労働財団
理事 長 丸 山 勝 規
長野県林業労働力確保支援センター
役員 一 同

長野県森林組合長会
会 長 林 和 弘

長野県造林協会
会 長 藤 原 忠 彦

長野県治山林道協会
会 長 羽 田 健 一 郎
役員 一 同

長野県林業薬剤防除協会
会 長 牧 司

森林・林業の総合アドバイザー
一般社団法人
長野県林業コンサルタント協会
理事 長 羽 田 健 一 郎

長野国有林森林整備協会
副会 長 林 由 井 正 隆
専務理事 長 酒 井 省 三 弘
長野市稲葉母袋沖六二二一
TEL (026) 285-1907
TEL (026) 285-1907
FAX (026) 285-1907

長野県林業士会
会 長 飯 森 幸 彦

長野県林業研究グループ連絡協議会
会 長 田 中 忠

長野県特用林産振興会
会 長 林 和 弘

長野県水源林造林協議会
会 長 白 鳥 孝



XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX



暑中お見舞い申し上げます



XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

“自然と共に”

NPO法人 森林環境

理事長 湯 沢 要 次

長野県駒ヶ根市経塚七十一
番(〇二六五)八一―四八〇三

農林中央金庫

関東業務部

長野県担当部長 島 田 博 之

南佐久北部森林組合

代表理事 組合長 佐々木 勝

南佐久中部森林組合

代表理事 組合長 黒 澤 和 夫

南佐久南部森林組合

レストラ
四季の味 樹木里
代表理事 組合長 由 井 明 彦

緑を育て山を守る

佐久森林組合

代表理事 組合長 山 岸 喜 昭

役員一同

緑の担い手

信州上小森林組合

代表理事 組合長 石 井 公 彦

役員一同

佐久森林林業振興会

役員一同

上小林業振興会

会 長 羽 田 健 一 郎
役員一同

諏訪地域森林づくり 林業振興会

役員一同

上伊那山林協会

役員一同

下伊那山林協会

役員一同

木曾山林協会

会 長 大 屋 誠
役員一同

諏訪森林組合

代表理事 組合長 藤 森 良 隆
役員一同

上伊那森林組合

もりもり上伊那
代表理事 組合長 白 鳥 孝
役員一同

飯伊森林組合

代表理事 組合長 林 和 弘
代表理事 常務 吉 澤 悦 史
役員一同



信州根羽すぎ・根羽ひのき

根羽村森林組合

代表理事 組合長 大久保 憲 一
役員一同

下伊那郡根羽村四〇七―一〇
番(〇二六五)四九―二二〇〇

松本地域森林 林業振興会

役員一同

北佐久木材協同組合

理事長 新 井 藤 弘
組合員一同
事務所 小諸市大字平原四ツ谷原九六七―七
番(〇二六七)二二―二二二〇
FAX(〇二六七)二四―〇六八三

上小木材協同組合

理事長 小 林 基 英
組合員一同
上田市芳田一八一―八一
番(〇二六八)三五―一四〇〇



暑中お見舞い申し上げます



素材生産事業、森林整備事業

有限会社 高遠興産

代表取締役 **林 敏行**

〒396-0023 長野県伊那市山寺一五五八一
☎(〇二六五)九六一〇〇七三
FAX(〇二六五)七二一八三〇八

立木買取り・生産販売・支障木処理
特殊材注文販売・産業廃棄物処分業
木材森林整備認定事業者

平澤林産有限会社

代表取締役 **平澤 照雄**

長野県伊那市西春近四一〇五番地
TEL(〇二六五)七八一三二三八
FAX(〇二六五)七六一五七七五

**長野地方緑化
推進委員会**

会 長 **山村 弘**

役員 一同

栄村森林組合

代表理事 **久保田 道一**

組合長

役員 一同

北信州森林組合

代表理事 **山崎 明**

組合長

役員 一同

株式会社 キーテック

代表取締役社長 **中西 宏一**

〒136-0082 東京都江東区新木場一七一二二
新木場タワー八階
TEL(〇三)五五三四一三七四一
http://www.key-tec.co.jp

損害保険代理店
環境事業計画施工・墓石

株式会社 モリレン長野

長野市中御所岡田町三〇一―一六
☎(〇二六)二六六七一六六三六
FAX(〇二六)二六六一〇一八二

大栄産業株式会社

松本市波田二九五―一―三七
☎(〇二六三)九二一五〇五一
FAX(〇二六三)九二一五八〇九

ホームページアドレス <http://www.daieisya.co.jp>

ホームベジランド

防腐加圧処理(ACQ・その他)
※加圧処理は、長さ160mまでできます
ウッドレリーフ製作

唐松・杉・桧各種 素材丸太・製材品
組建物・看板・加工一般・施工一式
新型インサイジング
(角材及び円柱可能)

防腐加圧処理(ACQ・その他)
※加圧処理は、長さ160mまでできます
ウッドレリーフ製作

グリーンプラマーク取得
地球にやさしい
生分解性プラスチック用の
生分解性フラスチック用の
生分解性被覆シート

信濃化学工業株式会社

〒381-0045
長野県長野市桐原1-2-12
TEL 026-243-1115
FAX 026-243-1520

北アルプス森林組合

代表理事 **割田 俊明**

組合長

役員 一同

公益財団法人

長野県緑の基金

理事長 **中條 智子**

役員 一同

カラ松日本一を目指します

**東信木材センター
協同組合連合会**

小諸市甲字鞍掛四七四七
TEL(〇二六七)二三一〇八八七
FAX(〇二六七)二二二二九九三

林業用薬剤と
グリーンメンテナンス

松くい虫防除・芝地総合管理
非農耕地雑草防除

― 緑と土と水を守る ―

長野県森林指定業者
長野県林業薬剤防除協会員

株式会社 アクロ信州

本社 ☎0268-23-2135 FAX0268-23-2153
中信営業所 ☎0263-77-8863 FAX0263-77-8893

サンドキーパーマット
SN緑化万能マット
カゴ枠・大型カゴ枠・パネルフトン籠

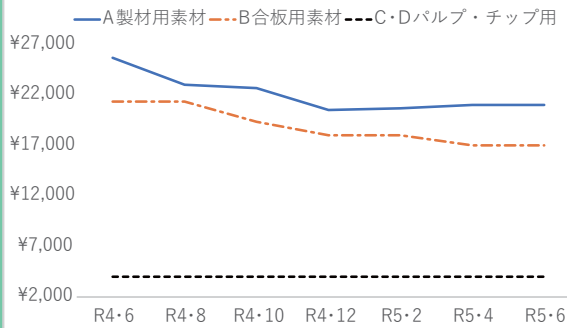
株式会社 酒井工業所

松本市井町南三丁目一〇番一四号
☎(〇二六三)五八一三二〇〇
FAX(〇二六三)八六一三八八一

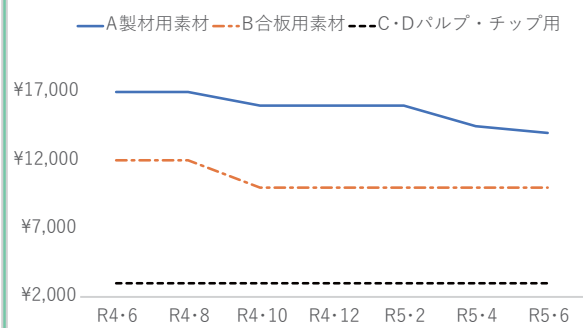


JForest 長野県の木材市況

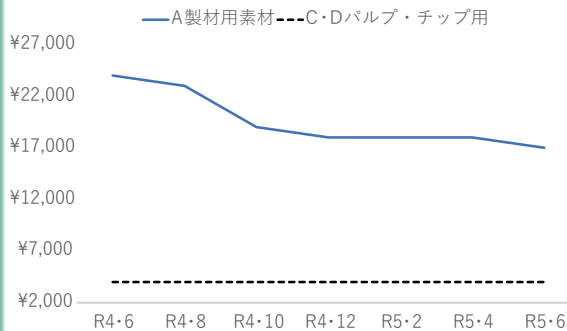
カラマツ用途別素材立米単価 (円/m³)



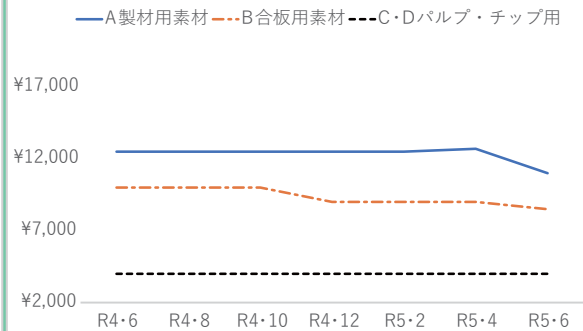
スギ用途別素材立米単価 (円/m³)



ヒノキ用途別素材立米単価 (円/m³)



アカマツ用途別素材立米単価 (円/m³)



※北信、中信、伊那木材センターの市況表より作成

梅雨入りとなり、県内各地で激しい雨による影響も出る中、各木材センターで6月の市売が開催されました。カラマツは製材用、合板向けともに前回から価格を維持するも荷動きは鈍化しています。ヒノキ製材用は土台取りを除き需要が低迷しているため値下げ傾向のほか、スギは合板向けなど価格が安定しているものの需要が少なく、特に大径材については値下げ傾向が強くなっています。アカマツは需要期を過ぎたため製材用は値を下げました。広葉樹材については需要を維持しており、特にクリについては良材に応札が活発でした。夏場はアオや虫害など材が劣化しやすい時期ですので、伐採予定のある方は早めの出荷をお願いします。

各木材センターでは、市況を見ながら需要に合わせた仕分け・はい積みをしてまいりますので、これから伐採、出材を計画されている方はご相談ください。

引き続き集荷のご協力よろしくお願いいたします。

【当連合会は合法木材に取り組んでおります】

合法木材供給事業者の認定を取得したうえで、出荷時には合法的に伐採された木材であることのコメントと合法木材認定番号及び伐採地と伐採箇所が記載された納品書及び伐採届の提出をお願いします。

※安全のため、木材センターでの荷下ろし・積込みの際には車止めの使用とヘルメットの着用をよろしくお願いいたします。



県森連 HP では市売情報を写真付きで随時更新しております！

最新の市況表もご覧いただけますので、納材や入札の検討にご活用ください！

「長野の林業」のバックナンバーもこちらから♪

